



みんな なかよく げんきに のびよう

三つの宝 「①つくしくまわりを ②がおてあいさつを ③ちんとくつならべ」

令和6年度 第18号
熊本市立植木小学校
令和6年6月14日
校長 東田 昌樹

多様性を受け入れる学校に 多様性を受け入れる社会に

本屋大賞をとった『成瀬は天下を取りに行く』宮島未奈著(新潮社)を読みました。続編も含めて、2冊とも一気に読みました。大笑いしながら読みました。

中学生の主人公「成瀬あかり」を中心とした小説です。小学生でも高学年なら読めそうです。おすすめの本です。多くの方に読んでほしいです。

あまり詳しく書くと、これから読む方にとってネタバレとなってしまうので、簡単に紹介します。

主人公の成瀬は、このようなキャラクターです。

- 1 マイペースである。
- 2 人の気持ちを理解することが苦手である。
- 3 夏休みの作品募集をすみからすみまで全部やる。
- 4 話し口調が人と違う。
- 5 「200歳まで生きるのが夢」と言う。

あまりにもまわりの人と違いすぎて、成瀬は浮いてしまいます。小学生のときははじめを受けています。しかし、「まわりの人と違うとは何か」「普通とは何か」と考えさせられます。

成瀬を取り巻くまわりの人たちの中には、成瀬を理解する人たちがいます。あるがままの成瀬を受け入れてくれる人がいます。成瀬の気持ちを大事にし、支えてくれる人がいます。成瀬とそのまわりの人たちとの関わりによって、あたたかな気持ちになる小説です。

さて、植木小学校の327人の子どもたち、当然ですが、みんな違います。多様性のある子どもたちが集まっています。

「おしゃべりな子」「無口な子」

「声大きい子」「声小さい子」

「一つのことに集中しすぎる子」「集中するのが苦手な子」

「活動的な子」「静かに本を読むのが好きな子」

「何でもチャレンジする子」「初めてすることが不安な子」

「音に敏感な子」「音に鈍感な子」

「暑がりな子・寒がりな子」「暑さが平気な子・寒さが平気な子」

「計画的にパターンを決めて行動するのが好きな子」「行き当たりばったりの子」

「誰とでもコミュニケーションがとれる子」「コミュニケーションをとるのが苦手な子」

「まわりと違う」「普通じゃない」と言って、友達を受け入れないようになってほしくありません。

「わたしと小鳥とすずと」という金子みすゞの詩の最後の一行「みんなちがって みんないい」ということです。「世界に一つだけの花」の歌詞にある「ナンバーワンにならなくてもいい、もともと特別なオンリーワン」ということです。

植木小学校は、多様性を受け入れる学校でありたいです。多様性を受け入れる社会になっていったらいいです。



【本校の教育目標】

気づき・考え・行動する自立と共生の力を備えた子どもの育成
～ どの子ども大切にされ、どの子ども成長する学校をめざして ～

